

公益社団法人日本騒音制御工学会誌「騒音制御」執筆要領
(特集記事の執筆用)

1. 一般事項

1.1 原稿の様式

- (1) 文章は横書きとし、和文の場合、一行約 23 字で約 46 行を 1 頁とし、英文の場合、一行約 65 ストロークで約 34 行を 1 頁とする。
- (2) 原稿には通し頁を記載する。

1.2 和文の用語

- (1) 文章は、現代仮名遣いにより「である」体で書く。
- (2) 漢字はなるべく常用漢字とし、数字はアラビア数字とする。
- (3) 学術用語は、文部科学省学術用語集または JIS 用語に従う。

2. 提出物と書き方

2.1 投稿時の提出物

特集記事は表1のように区分される。投稿者は表1に示す提出物を提出する。

表1 投稿時の提出物

区分	依頼 原稿票	原稿 (本文・図・写真・表 をレイアウトした完成原稿)
総論	○	○ MS-Word ファイル 及び それを出力した PDF ファイル
解説		
技術資料		
エッセイ		
会議報告		
その他		

2.2 依頼原稿票

- (1) 依頼原稿票（「特集記事執筆用テンプレート」の末尾に雛形がある）に必要事項を記入する。

2.3 本文

(1) 文章

- 1) 章の見出しに通し番号をつける。

例

章 1., 2., 3.,

節 1.1, 1.2, 1.3,

項 (1), (2), (3),

小見出し a., b., c.,

箇条書き 1), 2), 3),

(注) ①, ②, ③及び I, II, IIIは使用しない。

- 2) 参考文献がある場合には、本文の中に参考文献の引用番号を記載する。引用番号は、下記の例に従って、本文の文字の右肩にアラビア数字で記入する。引用番号は、後述 (6)の参考文献の項による。

例：「橋ら¹⁾の報告によれば、大型車の定常騒音は、・・・」

(2) 数式

1) 数式を文章の中に入れる場合には、 $(a+b)/(c+d)$ 、 $\exp(-t/a)$ などのように書く。別行とする場合に限り、

$$\frac{a+b}{c+d} \quad e^{-\frac{t}{a}}$$

などのように書いてもよい。

2) 式を別行とするときには、式一行を原稿では 2 行とする。長い式は、一行に納まる長さに区切って行を改める。

3) 一般に使用されていない文字記号などは避ける。

2.4 図・写真・表

(1) 図・写真

1) 図番号は、原稿全体を通しての番号とし、図-1、図-2（英文では Figure 1, Figure 2）のように書く。また、図番号、表題、説明文は、その図の下に書く。

2) 図は、著者が作成する。図の描き方については、4.を参照する。

(2) 表

1) 表番号は、原稿全体を通しての番号とし、表-1、表-2（英文では Table 1, Table 2）のように書く。また、表番号、表題、説明文は、その表の上に書く。

2) 表は、折込みとなるような大きさのものは避ける。

2.5 その他

(1) 図・表などの英文

論文、技術報告では、図・写真・表の表題、説明文は英文とすることが望ましい。

(2) 参考文献

参考文献は、本文の終わりにまとめて次の例に従って記載する。なお、原則として文献の著者全員の氏名を記載する。

・雑誌の場合

引用番号) 著者氏名：表題、雑誌名、巻号、pp. 開始頁-終了頁（発行年）

例)

1) 橋秀樹, 岩瀬昭雄, 石井聖光: 乗用車および大型車の定常走行音・パワーレベル, 騒音制御, vol. 6, no. 5, pp. 18-23 (1982).

2) S. Omata, S. Morita: Horizontal contact resonances pickup with rectangular bases on soil surfaces, J.A.S.A., vol. 68, no. 2, pp. 393-403 (1980).

・書籍の場合

引用番号) 著者氏名：表題（出版社、所在地、発行年）、p. 引用頁.

例)

1) 五十嵐寿一編: 音響と振動 (共立出版, 東京都, 1981), p. 221.

2) M. J. Crocker, A. J. Price: Noise and noise control, vol. 1 (CRC PRESS Inc., Ohio, 1975), p. 223.

(3) 単位

単位は、原則として SI 単位による。使用にあたっては、JIS Z 8202-0（量及び単位—第 0 部：一般原則）に従う。

注 1) JIS Z 8202-0 では、「量の特別な性質又は関与した測定状況に関する情報を示す手段として、単位記号にどんな修飾記号であれ付加することは正しくない。」と規定し、例として、「 $U_{\max} = 500 \text{ V}$ ($U = 500 \text{ V}_{\max}$ とはしない)」と示されている。よって、dBA などの単位記号は用いない。

注2) 数値と単位の間にはスペースを入れる。

(4) 文字, 活字, 図表挿入位置

- 1) ドイツ文字, 花文字などは使用を避ける。
- 2) 小数点はピリオド (.) とし, カンマ (,) は用いない。
- 3) 変数及び量記号はイタリックとする。

(5) 英文タイトル, 英文所属, 和文所属

- 1) 1 ページ目左下のボックス内に記載する。
- 2) ボックスが移動した場合は, ボックスを 1 ページ目左下に配置する。

3. 他の出版物からの引用

図・写真・表を他の出版物から引用する場合, 出典を必ず明記し, 必要に応じて原著者および出版社の了承を得る。

4. 図を作成する際の注意点

- (1) 線の太さは, 細線 (座標軸の目盛り, 引き出し線など), 中線 (座標軸など), 太線 (グラフ曲線など) の 3 種類程度とするときれいに見える。
- (2) 図中文字
 - 1) 図中の文字は, 8~9 ポイントとし, 変数はイタリックにする (2.4 の(2)数式の項参照)。
 - 2) グラフの縦軸の説明は, 軸方向に沿って横書きとする。英文は, 頭文字を大文字とし, 以下小文字で通すことが望ましい。

5. 頁数

頁数は, 会誌編集部会担当者から依頼を受けた頁数以内とする。

6. 「特集記事執筆用テンプレート」の利用

特集記事執筆用テンプレートは, 以下からダウンロード可能である。

http://www.ince-j.or.jp/05/05_page/kaishi/特集記事執筆用テンプレート.doc

なお, このテンプレートを利用すれば, 版下とほぼ同様の体裁で作成可能である。なお編集の都合上, 一部の構成などを修正する必要がある(その場合は著者に連絡する)。

附則 (平成 27 年 1 月 28 日第 20 期理事会)

この規則は平成 27 年 1 月 28 日から施行する。